
SUMIDA CORPORATION

2007年度第1四半期決算説明会

2007年5月8日

CFO

松田 三郎

1. 第1四半期連結経営成績

(単位:百万円)

	07年1Q		06年1Q	達成率 対予想	前年同 期比較
	実績	予想	実績		
売上高	16,888	16,400	14,806	103.0%	114.1%
営業利益	705	900	1,082	78.3%	65.2%
売上高営業利益率	4.2%	5.5%	7.3%	—	—
経常利益	563	650	1,206	86.6%	46.7%
四半期純利益	355	390	727	91.0%	48.8%

2. 売上分析

	07年1Q (百万円)	06年1Q (百万円)	増減	
			金額(百万円)	(%)
パワーソリューション	1,062	765	297	38.8
パワーインダクタ	3,690	3,342	348	10.4
シグナル	1,212	1,025	187	18.2
小 計	5,964	5,132	832	16.2
インバータ	1,412	1,823	△411	△22.5
オートモーティブ	2,294	1,950	344	17.6
その他	1,030	639	391	61.2
VOGT コンポーネント	5,563	4,661	902	19.4
VOGT EMS	625	601	24	4.0
合 計	16,888	14,806	2,082	14.1

3. 売上分析

	07年1Q (百万円)	06年1Q (百万円)	増減	
			金額(百万円)	(%)
マグネティックス	5,964	5,132	832	16.2
インバータ	1,412	1,823	△411	△22.5
オートモーティブ	2,294	1,950	344	17.6
その他	1,030	639	391	61.2
小計	10,700	9,544	1,156	12.1
VOGT コンポーネント	5,563	4,661	902	19.4
VOGT EMS	625	601	24	4.0
合計	16,888	14,806	2,082	14.1

4. コイルの営業利益分析

		(百万円)	
2007年1Qのコイルの売上高:10,700×2006年1Qのコイルの営業利益率:15.7%=			1,680
2007年1Qのコイルの営業利益(実績)			1,161
		(差異)	<u>△519</u>
【差異の要因】	VOGTのOEM	△18	(一過性)◎
	SUMIDA SHINTEXの開業準備費	△19	(一過性)
	旧正月対策の影響	△200	(一過性)
	新製品の立ち上げ	△40	(一過性)◎
	インバータの売上減少による影響	△80	(一過性)◎
	台湾から蘇州への移管によるコスト増(余剰固定費)	△40	(一過性)◎
	生産増に備えるための固定費増加	△90	(継続)
	その他(VOGT製品に移管費用)	△32	◎
	合計	<u>△519</u>	<u>◎210</u>

5. 販売単価・原材料費

販売単価	2006年4Q → 2007年1Q
レガシー	1.5%ダウン
インバータ	1.75%ダウン
オートモーティブ	1.85%アップ
	<hr/>
	0.77%ダウン
原材料費	
レガシー	2.1%ダウン
インバータ	0.1%ダウン
オートモーティブ	6.53%ダウン
	<hr/>
	3.08%ダウン

6. ビジネス(事業)別営業利益分析

(単位:百万円、%)

	07年1Q	06年1Q	増減額
コイル	1,161	1,502	△341
営業利益率(%)	10.8	15.7	—
VOGT コンポーネント	238	253	△15
営業利益率(%)	4.2	5.4	—
VOGT EMS	△7	62	△69
営業利益率(%)	△1.1	10.3	—
消去又は全社	△687	△735	48
合計	705	1,082	△377
営業利益率(%)	4.2	7.3	—

7. 貸借対照表

(単位:百万円)

短期借入金	13,960
社債(アルパイン)	8,000
長期借入金	4,727
借入金合計	26,687
現預金	6,902
ネット借入金	19,785
社債	8,000
借入金	11,785
	19,785

転換促進

資産圧縮

8. キャッシュ・フロー

1.営業活動	生産移管に伴う製品在庫の増加 185百万円
2.投資活動	パンタ社の持株比率のアップ (60%→70%)
	C-Labへの投資 354百万円
3.財務活動	—

9. 2007年第2四半期の業績予想

(単位:百万円)

	07年2Q 予想	06年2Q 実績	比較
売上高	17,300	14,953	15.7%
営業利益	1,000	1,125	△11.1%
売上高営業利益率	5.7%	7.5%	—
経常利益	800	1,234	△35.2%
四半期純利益	480	586	—

(前提となる為替レートは1US\$=115円)

10. 2007年通期の連結業績予想

(単位:百万円、%)

	2007年 予想	2006年 実績	比較
売上高	69,000	63,508	8.6%
営業利益	4,500	4,171	7.9%
売上高営業利益率	6.5%	6.6%	—
経常利益	4,000	4,505	△11.2%
四半期純利益	2,400	2,182	10.0%

(前提となる為替レートは1US\$=115円)

11. 2007年の事業計画

(単位:百万円)

	<u>1Q</u>	<u>2Q</u>	<u>3Q</u>	<u>4Q</u>	<u>2007年</u>
売上高	16,900	17,300	17,800	17,200	69,200
営業利益	700	1,000	1,400	1,460	4,560
経常利益	560	800	1,350	1,400	4,110
当期純利益	350	480	810	840	2,480

SUMIDA CORPORATION

2007年度第1四半期決算説明会

2007年5月8日

CEO

八幡 滋行

2006年度 スミダグループ売上高利益率

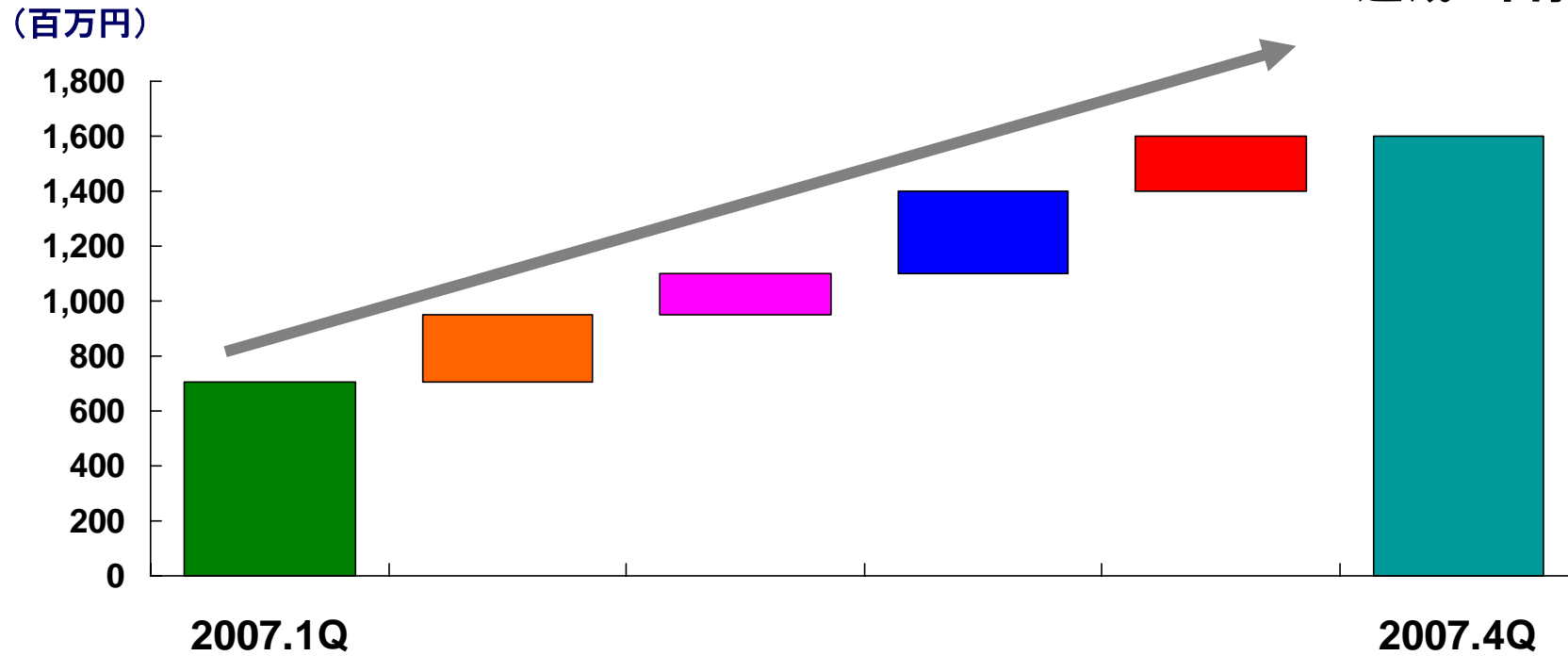
	旧スミダ	VOGT	コストセンター	合計
EBITDA率	14.7%	11.5%	△1.9%	11.4%
営業利益率	10.0%	5.2%	△1.9%	6.6%

2007年度 スミダグループ事業見通し

売上高	690億円	(100.0%)
EBITDA	78億円	(11.3%)
営業利益	45億円	(6.5%)
経常利益	40億円	(5.8%)
当期利益	24億円	(3.5%)

4Qへ向けた営業利益改善のイメージ

4半期ベースで
EBITDA率10%~14%
の達成を目指す



- 工場閉鎖・集約による利益
- 生産効率改善
- 不採算子会社の整理
- 増収効果 その他

2007年度 特別利益と改革費用について

IN	OUT
<p>遊休資産売却 事業売却等</p>	<p>主にリストラに係る費用</p> <ul style="list-style-type: none">－生産拠点の見直し－同 統合等
<p>約30～40億円の キャピタルゲイン</p>	<p>約33～35億円 (内、約半分が特別損失)</p>

1B7終了に向けて

2007年度推移

(単位:百万円)

	2007年度 第1四半期実績 (売上高比率)	2007年度 第2四半期予想 (売上高比率)		2007年度 第4四半期見通し (売上高比率)
売上高	16,888(100.0%)	17,300(100.0%)		17,200(100.0%)
営業利益	705(4.2%)	1,000(5.8%)		1,460(8.5%)
経常利益	563(3.3%)	800(4.6%)		1,400(8.1%)
当期利益	355(2.1%)	480(2.8%)		840(4.9%)

2006年度～2008年度

	2006年度	2007年度 予	2008年度 予	08/07(%)
売上高	63,508(100.0%)	69,000(100.0%)	75,000(100.0%)	108.7
営業利益	4,171(6.6%)	4,500(6.5%)	6,370(8.5%)	141.5
経常利益	4,505(7.1%)	4,000(5.8%)	6,200(8.3%)	155.0
当期利益	2,182(3.4%)	2,400(3.5%)	3,700(4.9%)	154.2

コイルビジネスはシェア競争

勝ち抜くための条件

① 顧客要求（性能 / リードタイム / 価格）への

● ● ●
対応力

② 新しいアプリケーションに素早く適合できる

● ● ●
開発力

③ 生産効率と低コストの生産拠点の模索

● ● ●
製造力

長期的戦略の骨子(対応力・開発力)

■多品種少量生産への体制強化

- 中国における応用開発力の一層の強化(C-Lab)
- 営業・開発・製造の一体化の更なる向上

■高度化ニーズへの対応力強化

- 開発部門への積極的なアプローチによる
技術対応力強化
- No1コイル専業メーカーとしての情報収集力向上による
受注予測の精度向上・生産対応力向上

■VOGT社とのシナジー追求によるモジュール製品の強化

長期的戦略の骨子(開発力・製造力)

- 中国における応用開発部門の強化(開発コスト競争力強化)
- 中国における生産コスト削減
 - サブコントラクターとの連携強化
 - 自動化等による生産オペレーション効率化の改善
 - 受注予測の精度強化による生産平準化
- ベトナム等における生産拠点拡充
- 不採算工場の整理

C - Lab の説明

中国広州市番禺区旧水坑
床面積：31,811㎡



開発体制

- ➡ 300⇒600名の開発人員
- ➡ 日本(M-Lab)と同等以上の開発設備

End of the Report

ご注意

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。当資料に掲載されている予想数値あるいは将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。